

木曽ヒノキの里の取組

特殊な寸法の丸太を需要に応じて供給

中部森林管理局 木曽森林管理署

はじめに

木曽森林管理署は、長野県の木曽川上流部（木曽谷）の国有林野の管理経営を担っています。管内の「木曽ヒノキ」は、日本三大美林の一つとして全国的にその名が知られているほか、明治時代に植栽されたヒノキ林をはじめ、高齢級の人工林資源が充実してきています。

近年、全国で公共建築物の木造化等の動きが広がっている中、木曽谷に所在する町村でも地場産材を利用した役場庁舎などの建築が相次いで進められていますので、当署では、国有林の森林資源を活かし、これらの建築に必要とされる木材の供給に取り組んできました。今回は、信州・木曽谷の木材と伝統的な技術・工法を採用したシンボリックな公共建築物の一部と、関連する当署の取組を御紹介します。

多様なニーズに応じた特殊な寸法の丸太の供給

公共建築物の建築に際しては、一般の住宅などに使用されるものと比べて、長さや直径などが特殊な寸法の丸太が必要とされることが多く、こうした「特殊用材」は民有林からの供給が期待しにくいいため、その確保が課題とされてきました。中部森林管理局では、こうしたニーズに応えるため、令和2年4月から、当局が丸太の販売を委託している木材市場を通じて要望や相談を受け付け、その情報を基に丸太の生産を行い、木材市場を通じて販売するという新たな取組を始めました。これにより、需要者のニーズにきめ細かく対応した供給が可能となりました。

役場庁舎や公民館の新築が進む信州・木曽谷

令和3年4月5日に開庁した木曽町役場本庁舎・防災センター（写真1）

管内概要

木曽森林管理署は、長野県南西部に位置し、木曽谷北部の木曽川上流部にあります。区域面積は110千haで、長野県全体1,356千haの8%にあたります。このうち国有林野は、木曽町等2町2村に所在し、その面積は57千haで、町村面積合計の5割を占めています。

当署管内は、ヒノキ、カラマツを主体とする人工林が42%、天然林が52%となっています。このため、天然林木曽ヒノキ、サワラ及び人工林ヒノキを主とする国有林材の原木供給に依存する流通及び製材加工が盛んな地域です。

また、森林浴発祥の地である「赤沢自然休養林」をはじめ、中央アルプス国立公園や御岳県立自然公園等の森林レクリエーション資源が豊富にあり、多くの方々に利用されています。



基礎データ

所在地	長野県木曽郡上松町正島町 1-4-1		
区域面積	109,577ha	うち森林面積	101,692ha
国有林野面積	57,659ha（国有林野率 57%）		
管轄区の関係町村	2町2村（上松町、木曽町、木祖村、王滝村）		

は、「木曽にかける大屋根」をコンセプトにした木曽地域の伝統的な「出梁造り」の工法（写真2）を用いた、全長108メートルの木造鋼板葺平屋建ての建物です。

この建物には、人工林のヒノキのほか、近年、建築用材としても需要が高まっているカラマツなど地域産の木材約1万2千本が使用されており、このうち柱や梁などの構造材の4割は町有木材が使われています。また、建物のシンボルともなっている組桁や出梁には、5mや6mといった特殊な長さの木材がまとまった量で必要だったことから、当署では、木曽町の御要望に添え、必要な木材の供給に協力させていただきました。

令和3年3月に竣工した上松町役場

新庁舎（写真3）は、木造と鉄筋コンクリート造との混構造で、人工林のヒノキが活用されています。正面玄関を入ると、太い柱と細い材が枝分かれした上部架構により、森の中にあるような空間が迎えてくれます。

昭和25年に町の中心部を焼く大火があり、以来、都市計画法に基づき木造建築物には条件付きでの建築が求められていることから、木造部分は4本の柱を合せた「合わせ柱」^{（注1）}、2本、3本の梁を合合わせた「合わせ梁」^{（注2）}などによる燃えしろ設計^{（注3）}の現し^{（注4）}が特徴的です（写真4）。

南木曽町においては、令和4年春の完成を目指し、妻籠町並み交流センターの建設準備が進められています（写真5）。現在、基本設計が完成し、特殊な

寸法の柱として36cm×6mのヒノキ丸太が55本必要となったことから、木材市場を通じて当署に要望をいただきました。

これからもお役に立ちます



木曽谷の林業は、天然林の木曽ヒノキを中心に育まれた長い歴史を持ち、林業、木材産業も盛んな地域です。これまでも民有林からの供給が期待しにくい樹種等の計画的な供給に取り組んできましたが、国有林として引き続き地域のニーズに応えながら、よりお役に立てるようさまざまな取組を行っていきます。中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業成長産業化に向けて、民有林行政や事業者の皆様

の参考としていただける取組を左記ウェブサイトでご紹介しています。こちらでもぜひご覧ください。

お役に立ちます国有林

<http://www.rinyamati.go.jp/chubu/policy/business/oyakunitaimasukokuyurin.html>



（注1） 合わせ柱…柱の強度を増すため、柱材を数本合わせてボルト等で結合したもの。
（注2） 燃えしろ設計…想定される火事で消失する木材の部分を「燃えしろ」といい、燃えしろ部分が焼失しても火災時に建物が倒れない設計のこと。
（注3） 現し…木造建築で、柱や梁などの構造材が見える状態で仕上げる手法。



写真1 木曽町役場本庁舎・防災センターの新庁舎



写真2 出梁造りの長い廊下「中山道こみち」



写真3 建設中の上松町新庁舎



写真4 「合わせ柱」等が見える上部架構



写真5 妻籠町並み交流センター（完成イメージ図）